

7月25日正午必着

明石春浦先生書



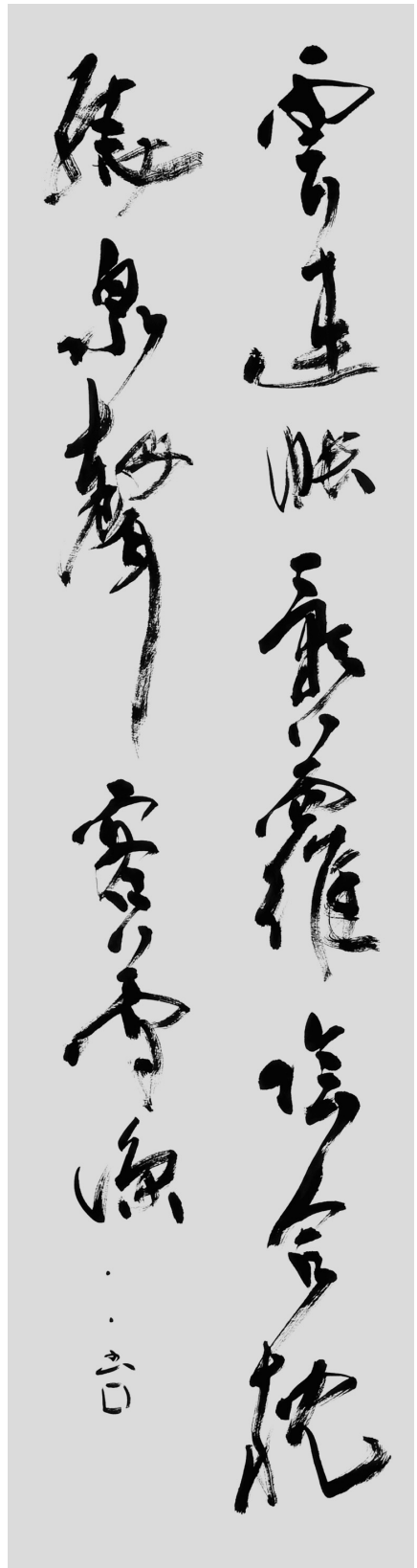
わがやはくがみのふもと
 余家國上麓
 もしせきはくをいとはずは
 若不厭寂寞
 もんをひらけばすいびにたいす
 開門對翠微
 しきりにたたりんかのとひら
 頻叩林下扉
 (良寛)

くがみ
 国上のふもとのわが家は門を開けば青い山。
 若しさびさが嫌でなきやいつでも訪ねて下さいな。

明石幸子書



初夏の真昼の野辺の青草にそのかげおとし立てる櫛の木(木下利玄)



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

閑居可以養志(後漢書)

閑居以て志を養う可し

世を避けて閑居し、その志を養う。

水浅魚争躍 花深鳥競啼 (高駢)

水浅くして魚争い躍り 花深くして鳥競い啼く
春光看盡きんとし 判却して酔うこと泥の如し

春ももはや盡んとしているところの
光景。判却は棄去るの意あり。

江行 (司空図)

江行 司空図

地闊分吳塞 楓高映楚天

地闊くして 吳塞を分かち 楓高くして 楚天に映す

曲塘春盡雨 方響夜深船

曲塘 春尽くる雨 方響 夜深くる船

行紀添新夢 羈愁甚往年

行紀 新夢を添え 羈愁 往年よりも甚し

何時京洛路 馬上見人煙

何れの時にか 京洛の路に 馬上にして 人煙を見ん

大井川 若葉すずしき山陰のみどりをわくる水の白波 (賀茂 眞淵)

半紙部規定課題A

7月25日正午必着

鐘 扣
残 月
一

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

7月25日正午必着

行書

鐘 扣月一
鐘 殘

隸書

鐘 扣月一
鐘 殘

明石春浦先生書

草書

鐘 扣月一
鐘 殘

行草書

鐘 扣月一
鐘 殘

林中に住居には格別の楽しみもなく 花壇の垣根のほとりに茶を淹れるほどのこと
雀は北の窓辺に餌を啄んで日は暮れゆき 僧が西の閣をうち開けばひえびえとしている
橋につきあたりつつ、二つの川はすみやかに流れ 月光の下に撞く鐘の音はわびしくもうすれゆく
夜明けにはまたお別れせねばならぬ 前途の険しさをいたずらに悲しむばかり

龍翔喜「胡權訪宿」 喩鳧

林棲無異歡

煮茗就花欄

雀啄北窓晚

僧開西閣寒

衝橋二水急

扣月一鐘殘

明發還分手

徒悲行路難

竜翔にして胡權が訪ねて宿するを喜ぶ 喩鳧

林棲 異歡無し

茗を煮て 花欄に就く

雀は北窓の晩に啄み

僧は西閣の寒きを開く

橋を衝いて 二水急に

月を扣いて 一鐘残す

明發 還た手を分つ

徒らに悲しむ 行路の難きを

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

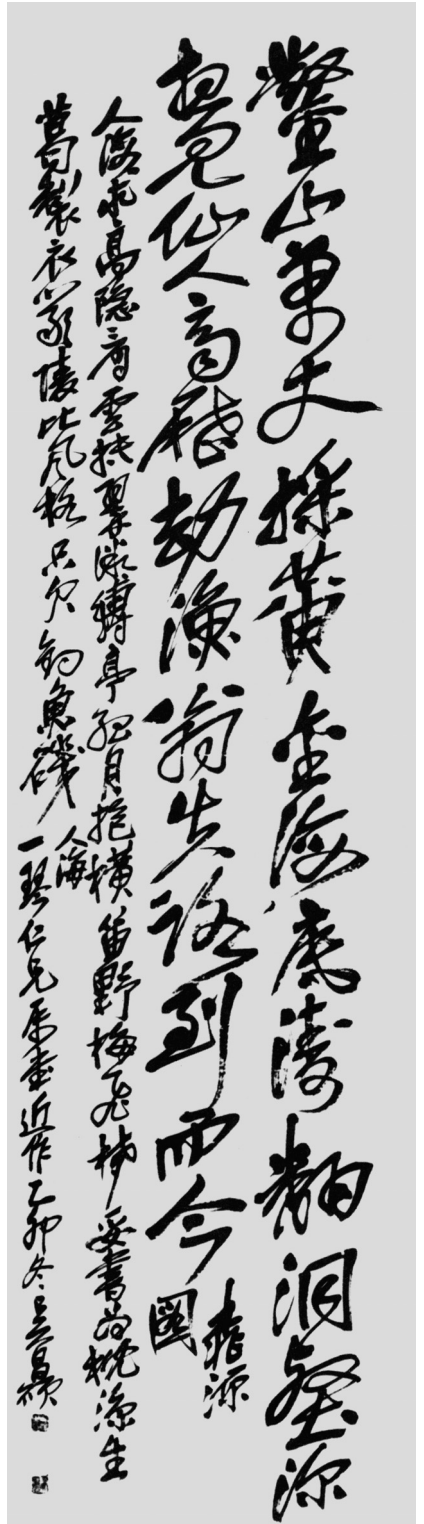
※「鐘」は「鍾」に同じ。

7月25日正午必着



漁翁失路到而

三浦士岳先生臨書



鑿山万丈採黃金海底涛翻洞壑深／想見仙人齊歷劫漁翁失路到而今／桃源／囟／人海求高隱看雲抵翠微縛亭孤月抱橫笛野梅飛夢妄書為枕涼生／葛製衣嚴陵比風格只欠釣魚磯／人海／一琴仁只屬書近作乙卯冬吳昌碩

吳昌碩・行草書

吳昌碩は清朝の道光二十四年に浙江省安吉県に生まれ、中華民国六年に上海で没した。(一八四四～一九二七・享年八四才) 名は俊長じて俊卿といい、字は昌碩、倉碩・蒼石・缶廬・苦鐵・老蒼などと号した。

清末から中華民国の初期は大動乱の時代で、十七才の時に太平天国革命の争乱が郷里に及び、一家は離散した。彼は難を逃れてひとり湖北省・安徽省などを五年間流亡した。二一才の時にようやく故郷にたどりつき、年老いた父と再会し、一緒に百姓をして生計をたてていた。

若いときから仕官の道にはまったく興味を示さず、ひたすら文学、芸術に打ち込んでいた。二九才の時故郷を離れ、杭州・蘇州・上海と遊歴し、文学を愈に学び、書を楊峴に、画を任頤に学んだ。一九〇四年に金石書画の研究団体として西泠印社が設立され、彼は推されて初代社長に就任した。久しく蘇州に住み、晩年には上海に定住し、文墨活動に励んだ。篆刻は十代から始め、書は中年以降晩年まで石鼓文の臨摹に没頭したが、王鐸や米元章を習ったといわれる行草書にも篆書の用筆法を取り入れた独自の直線的な連綿のスタイルを作り上げていった。

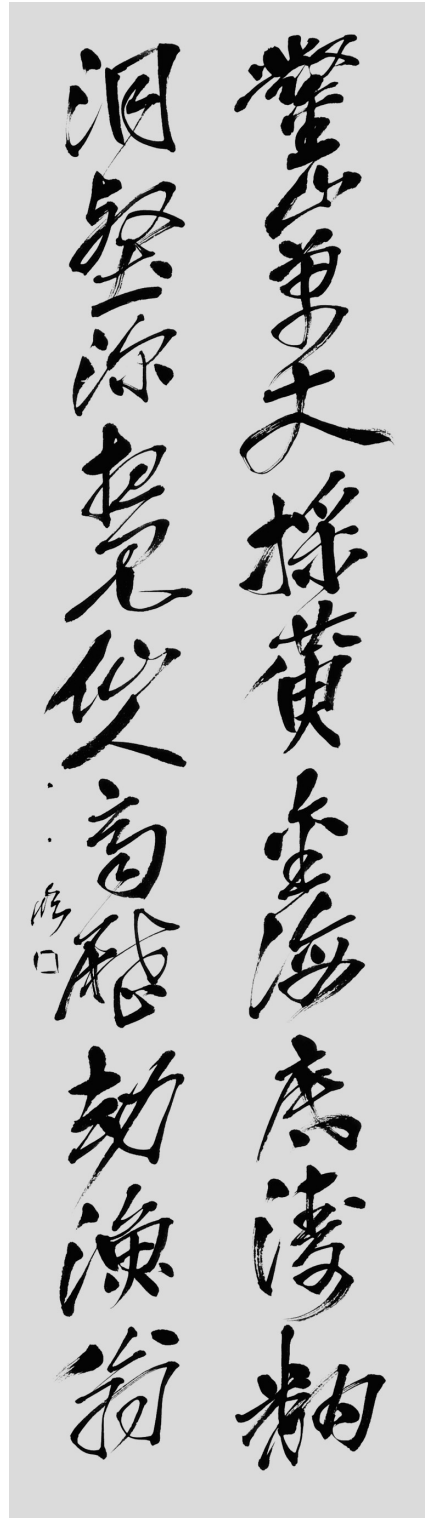
この行草書は自作の詩二首を書いたもので、吳昌碩七一才の書である。(春濤)



新竹氣清涼 (唐・張籍「夏日閒居」)

△做書参考作品▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



鑿山万丈採黃金海底濤翻洞壑深想見仙人齊歷劫漁翁
 山を鑿つ万丈 黄金を採り 海底 濤は翻って 洞壑深し 想見せり 仙人の齊しく劫を歴たるを 漁翁

教育部毛筆



げん そ き ごう
元素記号

中学一年

雨宮春聲先生書



こう こ がく しゃ
考古学者

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



いわな
岩魚つり

小学五年

榎戸春龍先生書



くも そうげん
雲と草原

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

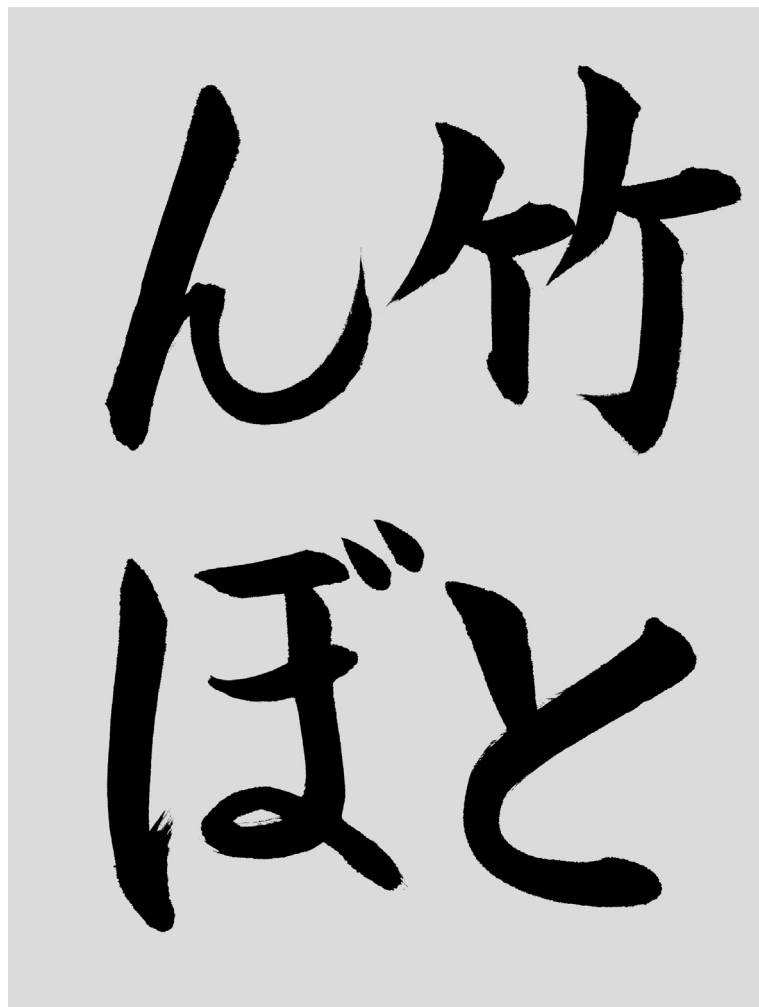
7月25日正午必着



藤田幸春先生書

こぶね

小学三年



細谷春誠先生書

たけとんぼ

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

か わ 小学一年・幼年



森戸春濤書

う き わ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

び	広い海原を自由にと
回	
る	
か	
も	
め	
の	
む	
れ	

小学五年

空と海とが交わる水	平線にしずむ太陽
-----------	----------

小学六年

海辺に築いた砂の城よ	せ来る波に消えてゆく
------------	------------

中学

懐かしくおもい出されます	いなかの夏まつりの露店が
--------------	--------------

一般(級位)

夜と秋の夕暮れは静か	かたは
------------	-----

一般(段位)

夏と秋と 行ゆきかふ空の 路通ひちは 瀬かたへす 吹しき風や おむふくらむ (凡河内躬恒)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

み	て
つ	ん
け	と
ま	う
し	む
た	し
	を

幼年

れ	よ
る	ぞ
	ら
あ	を
ま	
の	な
川	が

小学一年

た	は
	ま
白	べ
い	で
貝	み
が	つ
ら	け

小学二年

と	高
う	原
も	で
ろ	作
こ	ら
し	れ
	た

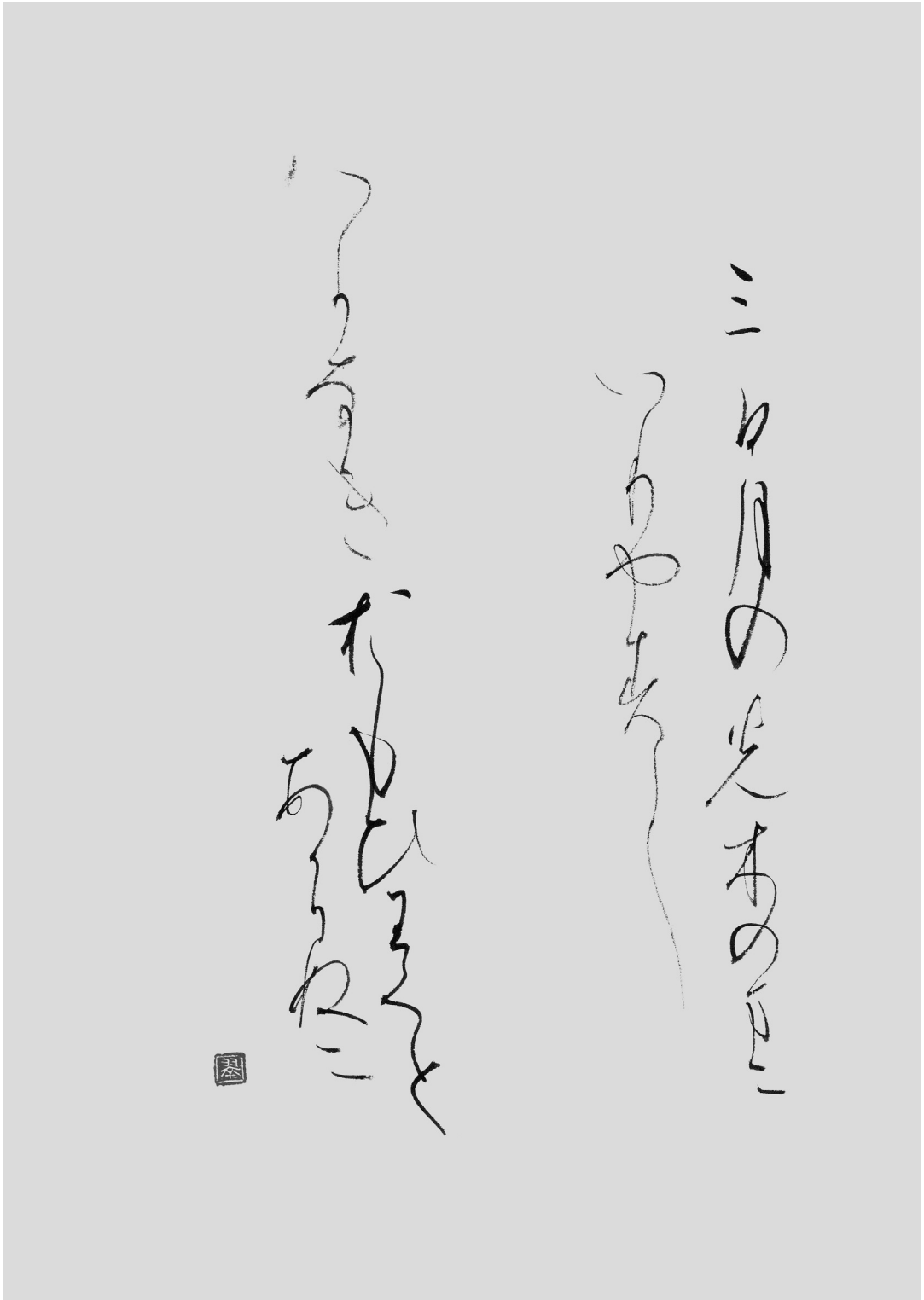
小学三年

る	白
海	い
づ	と
の	う
さん	台
ぼ	が
道	見
	え

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

三日月の 光木のまに
 万二 いたりやすし
 利也春
 はかなきおもひ
 八可奈 於毛
 王 わくとあらぬに
 二
 (島木赤彦)